

第2回BUG Art Award グランプリ個展



矢野憩啓

フルーツバスケット

2025.10.29(水) — 11.30(日)

ご挨拶

第2回BUG Art Award*でグランプリを受賞した矢野憩啓による個展「フルーツバスケット」を開催します。矢野は、身近なモチーフやセルフポートレートを描きます。その制作過程で見つけた単語を集めて構成した単語帳と絵を組み合わせた作品『see-through』で、第2回BUG Art Awardのグランプリを受賞しました。審査員からは、現場で思考を重ねながら展示構成を柔軟に調整する力や、BUGの空間における作品の見せ方の工夫が評価されました。

矢野は、街で見かけたフルーツ、切り開いたパンツ、職場から見える海など、日常の中で気になったものや出来事をモチーフに、アクリル絵具、クレヨン、オイルパステル、デジタルソフトなどさまざまな素材を用いて絵画を制作してきました。近年は、自身の身体や男性性といった個人的なテーマも取り入れながら、絵画と単語帳を組み合わせたインスタレーションを展開しています。

単語帳に使われている言葉には、日常の中で意識的に集めたものもあれば、偶然出会ったものもあります。それぞれの単語には、矢野自身の解釈による意味が記されており、作品を鑑賞する際の手がかりとなります。

本展では、会場全体を使い、絵画と単語の関係性を探る新作を展開します。グランプリ受賞から約1年、準備を重ねてきた矢野の個展をぜひご覧ください。

* BUG Art Awardは、制作活動年数10年以下のアーティストを対象にしたアワードです。審査員からのフィードバックの提供や、展示・設営に関する相談会の開催などのサポートを行い、審査過程においてもアーティストの成長に関与していきます。



プロフィール

矢野憩啓 / Yasutaka YANO

2000年千葉県生まれ。2023年に多摩美術大学絵画学科油画専攻を卒業。

自身と関わりのあるモチーフや無関係なモチーフを題材に絵を描く。また、それらを表す“言葉”との関係性や構造にも関心を持ち、「単語帳」というテキスト形式で表現している。主な展覧会に、二人展「風の裏側」(Art Center Ongoing、2024年)、個展「GREEN SCREEN」(Penguin's House Green、2023年)、グループ展「Ongoing 祭りー Art Fair Ongoing-」(Art Center Ongoing、2023年)、個展「Luminous」(多摩美術大学、2022年)など。受賞歴として、令和四年度 多摩美術大学 卒業・修了制作展 優秀賞(2023年)、第2回BUG Art Award グランプリ(2024年)。

https://www.instagram.com/yano_yasutaka/

インタビュー映像
(18分24秒)



インタビュー記事
(執筆:清水康介)



・会期中トークイベントを開催

出展アーティストとゲストによるトークイベントを開催します。

※開催時間や参加方法などの詳細はイベントページに随時更新します。

►11月8日(土) 19時~20時30分

ゲスト: 小林美香さん(ライター・講師)

写真、アート、ジェンダーに関する文筆活動やレクチャー、ワークショップを企画されている小林美香さんをお招きし、広告や街に現れる表象が私たちに与える影響について、本展展示作品に触れながら、多角的な視点からお話しいただく予定です。



►11月29日(土) 19時~20時30分

ゲスト: 西田祥子さん(京都芸術センター プログラムディレクター)

アーティスト・イン・レジデンス(AIR)とは、アーティストが特定の場所で一定期間を過ごし、創作活動を行うための制度です。今回のイベントでは、AIRの探し方や参加方法、種類など、基本的な情報から具体的な事例までを交えてお話しする予定です。



みどころ

・展覧会名に込められた意味

本展のタイトル「フルーツバスケット」は、矢野が幼少期に遊んだ椅子取りゲームに由来しています。このゲームでは、鬼が「青色の靴下を履いている人」など自由なお題を出し、その条件に当てはまる人たちが席を立って移動します。鬼の主觀によってその場でグループが作られるのが特徴です。

矢野は、このゲームのルールに、自身の制作を通じる5つの要素を見出しています。

- 1、言葉によってグループを作れること。
- 2、グループは言葉によって集まり方が変わること。
- 3、言葉の内容は変化すること。
- 4、作られたグループに自分が当てはまるかを考えてみること。
- 5、当てはまつたかは他人に知らせる必要はないこと。

たとえば鬼に「あなたの靴下は青色です」と言われても、人によっては自分の靴下を水色だと捉えていて、青色かどうかの判断は異なる場合があります。このように、同じ言葉でも人それぞれ受け取り方が異なり、意味が少しずつ変わっていく——その構造に、矢野は自身の制作との共通点を感じています。

・グランプリ個展での挑戦

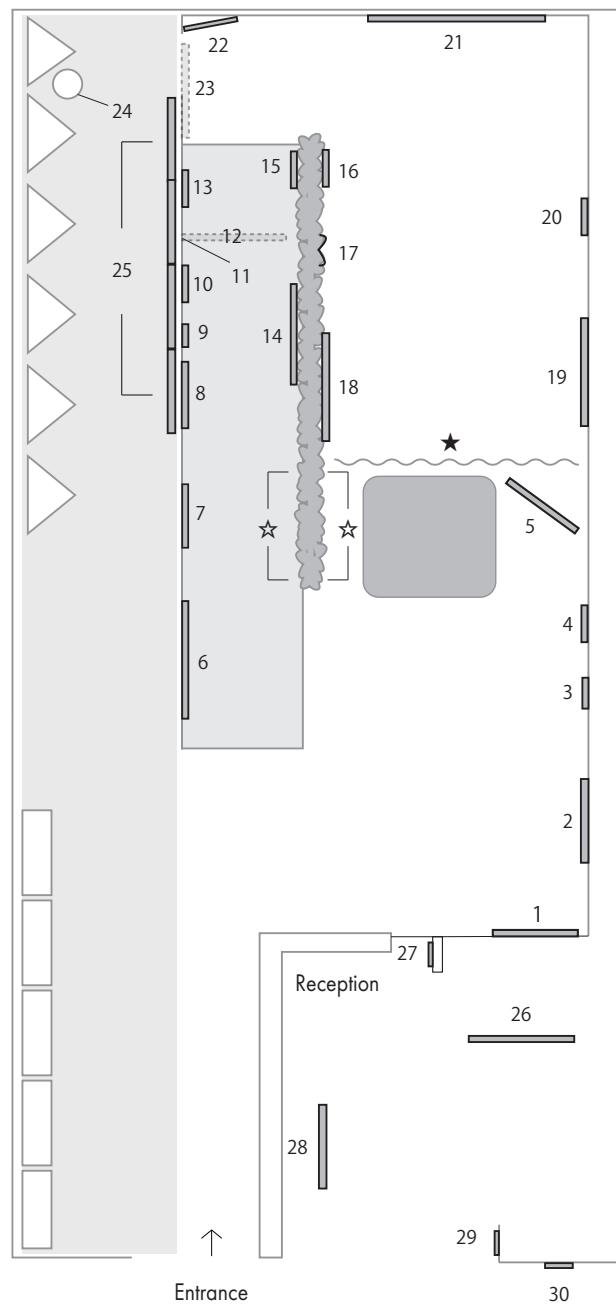
矢野はこれまで、個人的な悩みや身近な出来事を題材に、内省的な視点から作品を制作してきました。しかし近作では、「自分の身体」や「男性性」など、以前から関心を抱いていたテーマについて学びを深める中で、そのまなざしは次第に“外”、すなわち社会へと向かいつつあります。

本展の準備における打ち合わせや会期中のトークイベントなどを通じて、矢野は自分が関心を寄せるテーマへの理解を深めるとともに、社会的な視点を作品に意識的に取り入れようとしています。これは、自身の作品と社会との接点を探る、新たな試みでもあります。

また今回は、普段は閉じられているBUGとカフェをつなぐ扉を開放し、空間に新たな動線を生み出します。さらに展示空間の外側であるカフェの壁にも作品を展示。会場には、向こう側がぼんやりと透けて見えるカーテンやスロープを設置することで空間がゆるやかに仕切られるなど、「内と外」の意識は作品に対する姿勢だけではなく、会場構成にも表れています。

BUG Art Awardの機会を通して挑戦し続ける矢野の展示を、ぜひご覧ください。

作品リスト 各展示について、展示タイトル／制作年／素材を記した。全て作家蔵。



★カーテンは通り抜けできません。

☆

単語帳（持ち出し厳禁）

単語帳はご自由にお手に取って、作品鑑賞の際にご覧ください。

鑑賞後は、元の場所へお戻しください。

1
Orange
2025
90×90cm
油彩、紙

2
Floating
2025
162×130.3cm
油彩、キャンバス

3
mug
2025
41×31.8cm
油彩、キャンバス

4
Basket
2025
53×65.2cm
油彩、キャンバス

5
Drawing
2025
115×115cm
油彩、紙

6
Scale
2025
116.7×116.7cm
油彩、キャンバス

7
Goose
2025
60.6×91cm
油彩、キャンバス

8
Ghillie Suit
2025
190×115cm
油彩、アクリル、紙

9
Butt
2025
31.8×41cm
油彩、キャンバス

10
Untitled
2025
65.2×53cm
油彩、キャンバス

11 Drawing 2025 10×14.2cm 水性インク、紙	12 Swimming and Flying 2025 130.3×194cm 油彩、キャンバス	23 Sink 2025 194×162cm 油彩、キャンバス	24 Drawing 2025 14.2×10cm 水性インク、紙
13 Comedy 2025 65.2×53cm 油彩、キャンバス	14 Display 2025 130.3×162cm 油彩、キャンバス	25 Drawing 2025 サイズ可変 油彩、アクリル、紙	26 Living room 2025 130.3×162cm 油彩、キャンバス
15 Kiss 2025 65.2×65.2cm 油彩、キャンバス	16 Fire 2025 60.5×50cm 油彩、キャンバス	27 Red banana 2025 53×62cm 油彩、キャンバス	28 Drawing 2025 90×90cm 油彩、紙
17 Homosocial 2025 130.3×162cm 油彩、フェイクグリーン	18 Bedroom 2025 130.3×162cm 油彩、キャンバス	29 Fish bones 2025 45.5×38cm 油彩、キャンバス	30 Untitled 2025 65×53cm 油彩、キャンバス
19 Scale2 2025 162×162cm 油彩、キャンバス	20 Watermelon 2025 53×65.2cm 油彩、キャンバス		
21 Fruit Basket!! 2025 181.8×291cm 油彩、キャンバス	22 Dining table 2025 91×116.7cm 油彩、キャンバス		

第2回BUG Art Award グランプリ受賞者個展

矢野憩啓「フルーツバスケット」

会期：2025年10月29日（水）－11月30日（日）

主催：BUG

運営：小林祐希（BUG）

制作：堀田ゆうか（BUG）

広報：野瀬明子（BUG）

告知物デザイン：岡崎真理子

翻訳：ベン・ケーガン（Art Translators Collective）

会場・インタビュー撮影：西野正将

設営：HIGURE 17-15cas